

Finite Strip Method による扇形板の曲げ座屈

関西大学工学部 正会員 三上市 蔵

〃 〃 〇武田 八郎

〃 〃 赤松 洋一

〃 〃 米沢 博

1. まえがき 極異方性扇形板の曲げ座屈については、すでにFrobeniusの方法を用いて厳密解を誘導¹⁾、さらにGalerkin法を用いて近似解を誘導した²⁾。厳密解によると係数行列式の値を0にするような座屈荷重を走査法によって数値計算しなければならず、計算時間を多く要する。Galerkin法によれば適当な項数を考え行列の固有値を求めればよく、計算時間の上では有利であるが、行列の性質が悪く桁落ちが顕著である。今回採用した解析法Finite Strip Methodは、一方向の境界条件を満足する連続函数を変位函数として用いるので、有限要素法に比べて行列の大きさが小さくなり、プログラミングが容易であり、また行列の性質が良い。扇形板の境界条件としては、直線辺が単純支持され、曲線辺が種々の支持条件をもつ場合について考察した。

2. 基本式の誘導および解析法 図-1に示すように、純曲げを受ける極異方性扇形板がいくつかの帯要素から構成され、各帯要素においては剛度 D_r , D_θ , $D_{r\theta}$ は一定とする。図-1の斜線を施された任意の帯要素を考え、直線辺の境界条件を満足させるため、変位函数をつぎのように表わす。

$$w = \sum_m \{ \eta \}^t \{ C \} \{ W \} \sin m\pi\theta/\alpha$$

$$\text{ただし, } \{ \eta \} = \{ 1 \quad \eta \quad \eta^2 \quad \eta^3 \}^t,$$

$$\{ W \} = \{ w_i \quad \theta_i r_i \quad w_o \quad \theta_o r_o \}^t,$$

$$\{ C \} = \frac{1}{(1-\rho)^3} \begin{bmatrix} 1-3\rho & -\rho(1-\rho) & \rho^2(3-\rho) & -\rho^2(1-\rho) \\ 6\rho & (1-\rho)(1+2\rho) & -6\rho & \rho(1-\rho)(2+\rho) \\ -3(1+\rho) & -(1-\rho)(2+\rho) & 3(1+\rho) & -(1-\rho)(1+2\rho) \\ 2 & 1-\rho & -2 & 1-\rho \end{bmatrix}$$

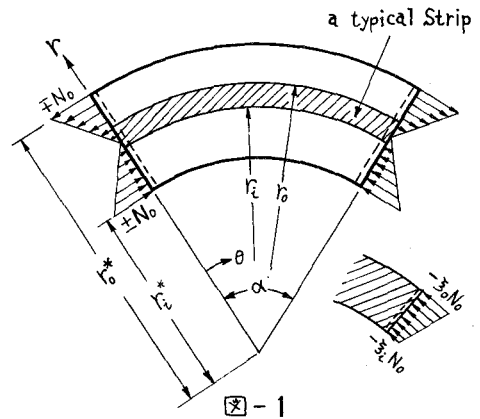
$$\eta = r/r_o, \rho = r_i/r_o.$$

帯要素の曲率と曲げモーメント、ねじりモーメントは、それぞれつぎのように表わされる。

$$\{ \chi \} = \{ -\partial^2 w / \partial r^2 \quad -(\partial w / \partial r \partial \theta + \partial^2 w / \partial r^2 \partial \theta^2) \quad 2(\partial^2 w / \partial r \partial \theta - \partial w / \partial r^2 \partial \theta) \}^t = \sum_m 1/r_o^2 \cdot \{ T \} \{ B \} \{ C \} \{ W \}$$

$$\{ M \} = \begin{Bmatrix} M_r \\ M_\theta \\ M_{r\theta} \end{Bmatrix} = \begin{bmatrix} D_r & D_r \nu_o & 0 \\ D_\theta \nu_r & D_\theta & 0 \\ 0 & 0 & D_{r\theta} \end{bmatrix} \{ \chi \} = \{ D \} \{ \chi \} = \sum_m 1/r_o^2 \cdot \{ D \} \{ T \} \{ B \} \{ C \} \{ W \}$$

ただし、 $\{ T \}$ は $\phi\theta$ の三角函数、 $\{ B \}$ は ϕ と η の函数を要素とする行列で、 $\phi = m\pi/\alpha$ で



帶要素のポテンシャル・エネルギーは、

複号は， $r=r_1$ で引張のとき+， $r=r_0$ で引張りのとき-をとる。

$$U = \frac{D^* d \pi^2}{4(r_i^* - r_j^*)^2} \sum_m \{w\}^t \{c\}^t \left[\left(\frac{1-\rho}{\pi\beta} \right)^2 \delta(H) - k\phi^2(Y) \right] \{c\} \{w\} \quad (1)$$
$$N_0 = k D^* \pi^2 / (r_o^* - r_i^*)^2,$$

$$\hat{\gamma}_1 = (\xi_i - \xi_0)/(1-\rho), \quad \hat{\gamma}_2 = \xi_0 + \hat{\gamma}_1, \quad D_1 \equiv D_r V_\theta = D_\theta V_r \quad \text{である。}$$

$$\partial U / \partial W = \{ \partial U / \partial w_i \quad \partial U / \partial \sigma_i \quad \partial U / \partial w_0 \quad \partial U / \partial \sigma_0 \}^t$$

$$\frac{\partial W}{\partial r_0 \partial \theta_i} = \frac{D^* d \pi^2}{2(r_0^* - r_i^*)^2} \sum_m (0 \ 1 \ 0 \ 0) (C)^t \left[\left(\frac{1-\rho}{\pi \beta} \right)^2 \delta(H) - A \phi^2(Y) \right] (C) \{W\}, \quad \text{etc.}$$

$$\partial U / \partial W = \{ (S) - k(F) \} \{ W \} \quad (2)$$
$$((S^*) - k(F^*)) \{W\} = 0 \quad (3)$$

数値計算例は、講演会当日発表する予定である。

2) 米沢三武田赤松：扇形板の曲げ座屈(近似解法), 土木学会年次学術講演会講演集Ⅰ部, 昭44.9, PI-124